

事例 1

学校や生徒の課題を基に教育活動を見直し、 新教育課程への移行を機に、学校改革を推進 山形県・私立山形城北高校

少子化による入学者数の減少や生徒の学力の多様化といった課題に直面している山形県・私立山形城北高校。より魅力的な学校づくりに向け、学校改革を推進するための軸を定めようと、新教育課程への移行を機にグランドデザインを策定し、各科・コースの特徴を生かした教育課程を編成した。

■ ■ ■ 多様な生徒が学び合うよさを
生かすグランドデザイン

山形県・私立山形城北高校は、特進科と普通科（進学教養・幼教福祉・スポーツ総合の3コース）を設置し、国公立大学や難関私立大学への進学のほか、幼稚園教諭や介護福祉士など、多様なキャリア形成を支える教育活動を展開している。同校は、新教育課程を機に教育活動を刷新しようと、2020年度から改革を進めてきた。その背景には、少子化による入学者数の減少や生徒の学力の多

様化があると、20年度に着任した大沼敏美校長は説明する。

「少子化が進行する状況で入学定員を維持しようとすると、入学者の学力差はそれまで以上に開きやすくなります。そこで、多様な生徒一人ひとりの成長を保障するとともに、科・コースごとに表面化していた様々な課題に対応して、より魅力のある、選ばれる学校づくりに取り組む必要があります。その第一歩として育成を目指す資質・能力を設定して、教育方針を明確にしたのです」

最初に着手したのは、グランド

図1 グランドデザイン（抜粋）

- 重点目標
- ① ICTを活用した個別最適な学びの提供
 - ② 社会とつながる協働的な学びの実現

（1）山形城北高校で学ぶと、何が身につくの？

本校では、すべての学習活動で以下の3つの柱に基づく学びを推進し、社会とつながる協働的な学びを実現します。

【資質・能力の3つの柱】

- ① 実際の社会や生活で役立つ知識・技能の習得
 - ② 未知のことにも対応できる思考力・判断力・表現力等の養成
 - ③ 学びに向かう力と人間性（主体性・多様性・協働性等）の涵養
- また、生涯にわたり学び、成長を続けていく力として、学校教育全体を通して、非認知スキルの養成にも力を入れます。

【OECDによる非認知スキル（社会情動的スキル）】

- ① 目標を達成する力（忍耐力、意欲、自己制御、自己効力感）
- ② 他者と協働する力（社会的スキル、協調性、共感性、信頼）
- ③ 情動を制御する力（自尊心、自信、問題行動のリスクの低さ）

（中略）

（3）山形城北高校では、どんな教育に力を入れるの？（「教育の重点」）

- ① 論理言語力の育成
- ② 科学リテラシーの養成
- ③ 外国語教育の推進とグローバル化への対応
- ④ 主権者教育・消費者教育・ふるさと教育・SDGsの推進
- ⑤ 道徳教育の充実
- ⑥ 健康教育・安全教育の推進
- ⑦ 特別支援教育の充実

※学校資料を基に編集部で作成。



校長
大沼敏美 おおぬま・としみ
教職歴39年。同校に赴任して1年目。



副校長
千葉宏宣 ちば・ひろのぶ
教職歴31年。同校に赴任して31年目。



教頭
細野敏明 ほその・としあき
教職歴34年。同校に赴任して34年目。



教務課長
山村美和 やまむら・みわ
教職歴25年。同校に赴任して16年目。数学科。



特進科長
太田英司 おおた・えいじ
教職歴16年。同校に赴任して16年目。外国語科（英語）。

学校概要

設立 1926（大正15）年

形態 全日制／特進科・普通科／共学

生徒数 1学年約340人

2021年度入試合格実績（現役のみ） 国公立大は、山形大、新潟大、青森公立大に7人が合格。私立大は、東北学院大、東北芸術工科大、東北文教大、獨協大、北里大、駒澤大、東海大、東洋大、明治大、同志社大などに延べ116人が合格。

デザインの方針だ。20年8月、全教師にアンケートを実施し、生徒に育成したい資質・能力を調査した。すると、これからの社会を力強く生きるために必要な資質・能力として、忍耐力や協調性、自尊心などが挙げられた。その結果を踏まえて、育成を目指す資質・能力として、文部科学省の「資質・能力の3つの柱」と、OECDが提唱する「非認知スキル（社会情動スキル）」を設定した（図1）。

「本校の生徒は、大学進学が5割、専門学校進学が3割、就職が2割と、日本全体の高校生の進路状況とほぼ重なります。学力層も希望進路も多様な生徒が混在する

ため、自校で育成を目指す資質・能力は、学校独自に策定するのではなく、汎用性の高い資質・能力を設定しました。その上で、一人ひとりにとって重要な『資質・能力の3つの柱』や『非認知スキル』とは何か、それらを育成するために行うべき教育活動は何かなどの議論に時間をかけたいと考えました」（大沼校長）

その目標達成に向けた学びの方針と、重点を置く7つの教育を設定し、ブランドデザインを完成させた。学校の進む方向性が明確になったことで、議論は一層活発になったと、細野敏明教頭は語る。「それまでは、改善策が学校全体

の方針に合致しているかどうか実感しづらく、議論が進みにくいことがありました。ブランドデザインという明確なよりどころができたことで、学校全体がまとまり、前進しやすくなったと感じます」

コース混合クラスの設置など、生徒の成長を促す環境を整備

20年12月には、再び全教師にアンケートを実施。コース間の学力差の是正をねらいとして、新教育課程では、普通科の1年次に限り、3コース混合クラスに変更する案に意見を求めた。教務課長の山村美和先生は、こう述べる。

「多様な生徒が学び合い、切磋琢磨する環境を整えることで、生徒全員の学力を向上させるといってねらいがありました。例えば、スポーツ総合コースには、部活動を頑張る生徒が多いのですが、将来に向けて学習に励む他コースの生徒に接することで、スポーツ総合コースの生徒も学習へ意識が向くといった変化が期待できます」

その案への賛否は分かれた。賛成派からは「下位層の底上げが図れる」と、反対派からは「上位層が伸びにくくなる」と、それぞれの理由が挙げられた。大沼校長は、それらの意見をブランドデザインに照らし合わせて検討し、「育てたい生徒像」に掲げた「多様性を尊重」という方針を重視して混合クラスの導入を決定。さらに、入学時点では将来を決めかねている生徒が多い状況を考慮し、2年生進級時にコース変更を可能にした。

「改革によって、学校に新しいエネルギーを生み出したといった考えがありました。双方の意見と判断理由を明記したプリントを配布して私の考えを伝えると、先生

※プロフィールは、2021年3月時点のものです。

図2 山形県・私立山形城北高校 2022年度入学者 教育課程 検討案(普通科キャリア探究コース、特進科)

単位数	普通科 キャリア探究コース						特進科						
	1年		2年		3年		1年		2年		3年		
	幼児教育系	福祉系	情報キャリア系	幼児教育系	福祉系	情報キャリア系	文系	理系	文系	理系	文系	理系	
1	現代の国語(2)	論理国語(2)		論理国語(2)		現代の国語(2)	論理国語(2)		論理国語(2)				
2													
3	言語文化(2)	文学国語(3)		国語表現(3)		言語文化(2)	古典探究(3)		古典探究(3)				
4													
5	歴史総合(2)					歴史総合(2)							
6		公共(2)		日本史探究/世界史探究(2)			公共(2)		公共(1)		地理探究(4)		
7	地理総合(2)					地理総合(2)			政治・経済(3)				
8		日本史探究/世界史探究(2)		政治・経済(2)			世界史探究(4)		日本史探究(4)		数学II(4)		
9							数学II(4)		世界史探究(3)		日本史探究(3)		
10	数学I(3)	数学II(3)		数学II(3)		数学I(3)	数学II(4)		数学II(4)		数学II(4)		
11							数学B(1)		数学C(1)		数学B(2)		
12	数学A(2)	科学と人間生活(2)		科学と人間生活(2)		数学A(2)	数学II(4)		数学III(1)		数学II(4)		
13							数学II(4)		数学II(4)		数学B(2)		
14	化学基礎(2)					化学基礎(2)	物理基礎(2)		数学B(2)		数学C(2)		
15		体育(2)		体育(3)			数学B(2)		物理(3)		生物(3)		
16	生物基礎(2)	保健(1)				化学基礎(2)	数学C(1)		化学(4)		数学C(2)		
17		学校設定ダンス(1)		学校設定人文社会(2)		学校設定ダンス(2)	ビジネス基礎(2)		数学C(1)		数学B(2)		
18	体育(2)	学校設定器楽(2)		学校設定器楽(2)		学校設定器楽(2)	学校設定器楽(2)		生物基礎(2)		化学基礎(1)		
19	保健(1)	学校設定造形(2)		情報処理(3)		学校設定器楽(3)	介護福祉基礎(3)		ソフトウェア活用(3)		体育(2)		
20													
21	音楽I・美術I(2)	英語コミュニケーションII(3)		学校設定造形(2)		学校設定造形(2)	生活支援技術(2)		学校設定基礎数学(2)		保健(1)		
22											音楽I・美術I(2)		
23	英語コミュニケーションI(4)	英語コミュニケーションII(3)		学校設定造形(2)		英語コミュニケーションII(3)		英語コミュニケーションI(4)		保健(1)		体育(3)	
24		学校設定実践英会話/韓国語/消費者教育(1)		英語コミュニケーションII(3)		英語コミュニケーションII(3)		英語コミュニケーションII(4)		英語コミュニケーションII(4)		生物基礎(2)	
25	家庭基礎(2)	情報I(2)		学校設定実践英会話/韓国語/消費者教育(1)		学校設定実践英会話/韓国語/消費者教育(1)		英語コミュニケーションI(4)		英語コミュニケーションII(4)		化学(3)	
26												化学(3)	
27												化学(3)	
28	総合的な探究の時間(1)	総合的な探究の時間(1)		総合的な探究の時間(1)		総合的な探究の時間(1)		総合的な探究の時間(1)		総合的な探究の時間(1)		化学(3)	
29	LHR	LHR		LHR		LHR		LHR		LHR		化学(3)	
30												化学(3)	
31												化学(3)	
32												化学(3)	
33												化学(3)	
34	総合的な探究の時間(1)	総合的な探究の時間(1)		総合的な探究の時間(1)		総合的な探究の時間(1)		総合的な探究の時間(1)		総合的な探究の時間(1)		化学(3)	
35	LHR	LHR		LHR		LHR		LHR		LHR		化学(3)	

注1) 学校設定：学校設定科目。注2) ()内の数字は単位数。 ※学校資料を基に編集部で作成。

方は皆、決定に同意してくれました。初めにアンケートで全教師に意見を聞いたことで、学校改革への参画意識が生まれ、自分の考えとは異なる結果になっても納得で

きたのだと思います(大沼校長) 特進科の現行の教育課程では、土曜日も授業があり、部活動に参加できないことが、生徒募集における課題となっていた。特進科に入学で

きる学力を備えている生徒が、部活動に参加したいがために普通科に入学し、学力を伸ばし切れないケースも見られた。千葉宏宣(ひろのぶ)副校長は次のように説明する。

「全国の特進科を持つ高校を視察すると、多くの学校が学習と部活動を両立させていました。それらの学校にならない、本校の特進科でも、新教育課程では土曜日の授

業を課外とし、希望者は部活動に参加できるようにします」

特進科の新教育課程は、現行の教育課程から4単位減の35単位(図2)とし、減少分は課外授業で補完するとともに、授業改善を一層進め、指導の質向上を図る方針とした。特進科長の太田英司先生は、次のように述べる。

「単位数を減らすことが、生徒の学力にマイナスの影響を与えるとは捉えていません。これまでは授業の予習・復習で手いっぱいの子供もいましたが、少し時間に余裕が生まれる分、生徒自身が課題を見つけてそれに取り組むよう、指導していく考えです」

■ 各科・コースの特性を生かした特色ある教育課程を編成

新教育課程の検討は、学校改革と同時進行で行われた。

「新教育課程を検討する中で気づいた重要な点をグランドデザインに反映させるなど、目標と手段を柔軟に行き来しながら検討を進めました」(大沼校長)

例えば、「SDGs(*1)に

ついてもっと学びたい」という生徒会からの要望を受け、グランドデザインの「教育の重点」に「SDGsの推進」を追記するとともに、SDGsとかかわりの深い「地理総合」を1年次に配置した。

また、現行の教育課程でも語彙力や読解力を重視してきたが、それらの力が十分に身につけておらず、教科学習の課題になっていた。そこで、「教育の重点」の1つに「論理言語力の育成」を掲げ、「Liers理論言語力検定」(*2)を導入し、新教育課程では、授業や朝学習の時間に検定用のワークブックなどに組み入れることにした。

「就職で学校推薦を得るには3級以上」「大学進学で学校推薦を得るには2級以上」の取得を原則とし、検定を企業や大学に対する学力保障の1つとする考えだ。

さらに、各科・コースの特徴を考慮して新教育課程を編成した。「グランドデザインで、すべての生徒への育成を目指す資質・能力を明確にしたことで、軸をぶらさずに科・コースの特徴に合わせ

た教育活動について議論することができました」(細野教頭)

例えば、国語では、スポーツ探究コース(現・スポーツ総合コース)とキャリア探究コース(現・幼教福祉コース)の生徒は、就職試験や総合型選抜・学校推薦型選抜で志望理由書などを書く機会が多いため、3年次に「国語表現」を配置し、加えて、「文学作品に触れさせて感性を育みたい」という国語科教師の思いから、「文学国語」を2年次に配置した。特進科とアカデミック探究コース(現・進学教養コース)では、大学入試への対策として、2・3年次に「古典探究」を配置した。

キャリア探究コースでは、生徒の多様なキャリア形成を支えるため、「器楽」「造形」「実践英会話」「韓国語」「消費者教育」など、様々な学校設定科目を設置した。「情報I」については、様々な意見が交わされた。同科目における学習内容の高度化が見込まれることから、「数学I」「数学A」を履修してからの方がプログラミングやデータ処理の理解が深まると

いった見解に加え、大学入学共通テストの対策や講師の確保などの点も含めて総合的に判断し、2年次に配置した。特進科では、3年次の課外授業を「情報I」の学習内容と連動させる方針だ。

■ 手段が目的化しないように学校改革を継続

同校の学校改革は進行形であり、今後も様々な検討を重ねていく。例えば、「総合的な探究の時間」は、東北芸術工科大学と連携し、地域のヒト・モノ・コトに目を向けさせ、自分ごととして問題解決に取り組む探究学習を模索している。常に「手段を目的化させないこと」を意識して改革を進める考えだ。

「手段であるICT教育や教科横断型学習も、目的化させないよう充実に図っていきます。教育の目的は生徒一人ひとりの成長にあり、学びのプロセスそのものに意義があるということを見失わずに、必要に応じてグランドデザインも見直ししながら、学校改革を進めていきます」(大沼校長)

*1 Sustainable Development Goalsの略。2015年に国連が掲げた、持続可能な開発目標のこと。「貧困をなくそう」「飢餓をゼロに」など、17の目標と169のターゲットから成る。*2 ベネッセコーポレーションの検定の1つ。社会で活躍するために必要な力を「語彙運用力」「情報理解力」「社会理解力」の3つの領域で育成・測定する。